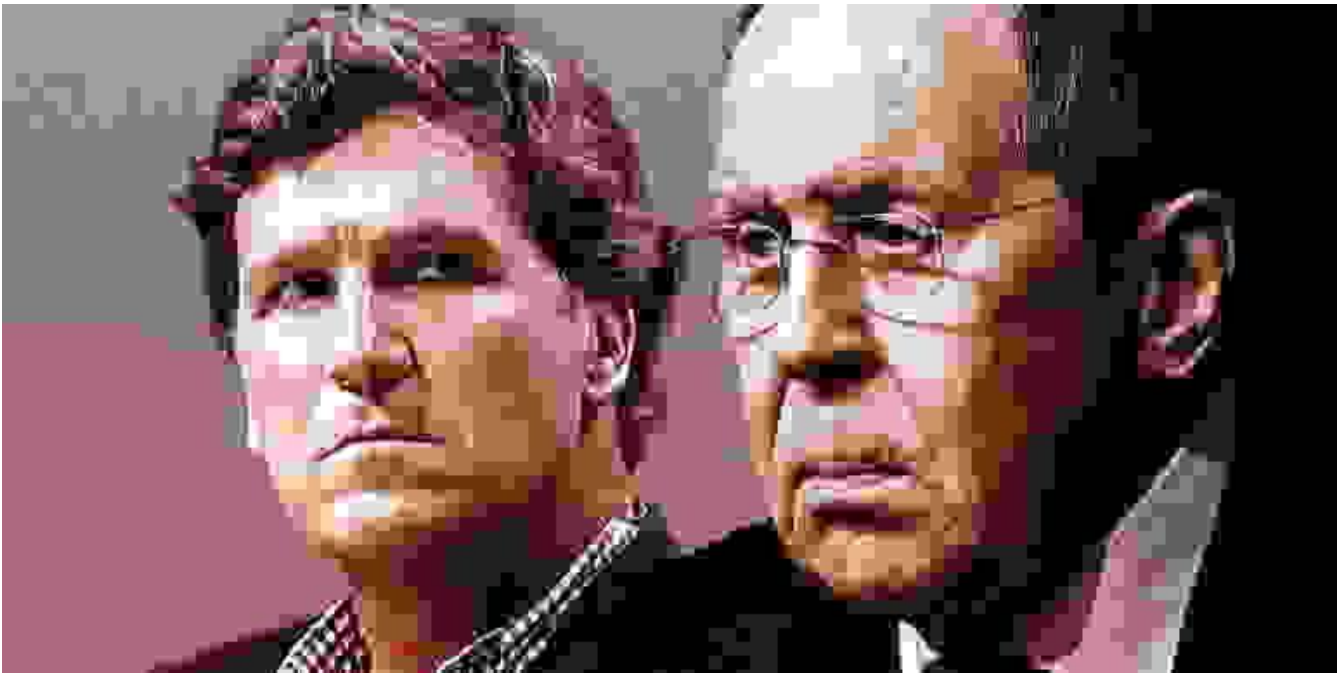


12月10日のウクライナ情報

安齋育郎

タッカー・カールソン、セルゲイ・ラブロフ露外相 インタビュー全編 1時間 20分
Tucker Carlson, Sergey Lavrov Full interview
TCN War on Ukraine #6558 5 December 2024

英語翻訳:池田こみち(環境総合研究所顧問、TCN 会員)
独立系メディア E-wave Tokyo 2024年12月6日



TCN-Interview 全文 テキスト化翻訳

翻訳者:池田こみち 東京都生まれ、東京都在住。聖心女子中高、聖心女子大学卒、東京大学理学部、東京大学医科学研究所、「成長の限界」報告で知られるローマクラブ日本事務局(日本科学技術・経済学会事務局)の青山貞一氏と1986年に株式会社環境総合研究所、2003年に非営利の独立系メディア E-wave Tokyo を創建し現在に至る。

本文

タッカー・カールソン [00:00:00] ラブロフ大臣、このような機会を設けていただきありがとうございます。米国とロシアは今、互いに戦争状態にあると思いますか？

セルゲイ・ラブロフ [00:00:07] そうは思いません。いずれにしても、それは私たちが望むことではありません。もちろん、私たちはすべての隣国と正常な関係を築きたいと願っています。が、一般

的には地球上のすべての国々とです。特に、アメリカのような偉大な国です。プーチン大統領は、アメリカ国民、アメリカの歴史、世界におけるアメリカの功績に対して、繰り返し敬意を表しました。そして、ロシアとアメリカが宇宙のために協力できない理由はないと考えています。

タッカー・カールソン [00:00:44] しかし、米国は、あなたがたが関与している紛争に資金援助しており、今ではロシアそのものへの攻撃を容認しています。それでは戦争とは言えないのでしょうか？

セルゲイ・ラブロフ [00:00:59] ええ、公式には戦争ではありません。しかし、ウクライナで起きていることは、一部の人々はハイブリッド戦争と呼んでいます。私もハイブリッド戦争と呼びたいと思います。しかし、ウクライナ人が長距離の近代兵器を使って、アメリカ軍の直接的な関与なしに、このようなことを行うことは不可能であることは明らかです。これは危険なことであり、疑いの余地はありません。私たちは事態を悪化させたくはありません。しかし、ATACMS やその他の長距離兵器が、言わばロシア本土に対して使用されているのです。我々はシグナルを発信しており、数週間前の最後のシグナル、つまりオレシュニクと呼ばれる新しい兵器システムが真剣に受け止められることを期待しています。しかし、ペンタゴンや NATO を含む他の場所の当局者の中には、ここ数日、NATO は防衛同盟だが、攻撃が最善の防御であるため、時には先制攻撃も可能だ、といったようなことを言い始めた者もいます。StratCom(米国戦軍)の他のメンバーは、ブキャナンという名前で StratCom の代表者だと考えているかもしれない。彼は限定的な核攻撃の応酬の可能性を示唆する発言をした。こうした脅しは本当に心配だ。なぜなら、最近一部の欧米人が主張している論理に従うなら、ロシアがレッドラインを持っているとは思わないで、レッドラインを発表し、そのレッドラインは何度も何度も動かされているからだ。これは非常に深刻な誤りです。これが、この質問に対する私の答えです。

ドンバス地方でドゥー政権が自国民に対して行っていた戦争を終わらせるために、我々は軍事作戦を開始したと繰り返し言われていますが、戦争を始めたのは我々ではありません。そして、彼の最新の声明では、大統領はあらゆる事態に備えていることを明確に示しましたが、ロシアの正当な安全保障上の利益を尊重し、ウクライナに住む人々、つまり今もウクライナに住むロシア人、そして彼らの基本的権利、言語権、宗教的権利を尊重することを基礎とした交渉による平和的解決を強く望んでいます。2017年以降、ロシア語での教育、ウクライナで活動するロシアのメディア、そしてウクライナ語で活動するロシアのメディアを禁止する法律が次々と可決されました。そして、もちろん、ロシア語での文化イベントをすべて中止する動きもありました。ロシア語の本は図書館から排除され、根絶やしにされました。

そして、最新の動きとしては、正教会であるウクライナ正教会を禁止する法律が可決されました。そして、ご存知のように、欧米諸国の人々が「この紛争は国連憲章に基づき、ウクライナの領土保全を尊重して解決すべきであり、ロシアは撤退すべきだ」と言うのは非常に興味深いことです。国連事務総長も同様のことを言っています。最近、彼の代理人は「この紛争は国際法に基づき解決すべきだ」と繰り返しました。

国連憲章。ウクライナの領土保全を尊重しつつ、国連憲章と総会決議を尊重すべきである。国連憲章を尊重するつもりなら、全体を尊重しなければならない。国連憲章は、とりわけ、すべての国が国家の平等と民族自決権を尊重しなければならないと定めている。また、国連総会決議についても言及している。これは、彼らが言わんとしているのは、特別な軍事作戦開始後に採択された一連の決議であり、ロシア非難を要求していることは明らかです。ロシアは1991年の国境でウクライナ領から撤退すべきです。しかし、国連総会決議には、採決は行われなかったものの、合意されたものもあります。その中には、国連憲章に基づく国家間の関係原則に関する宣言があり、そこには明確に「合意により」と書かれています。政府が自決権を尊重する国家の領土保全は、誰もが尊重しなければなりません。そして、その領土に住む全住民を代表しているからです。

2014年2月の軍事クーデターで政権を握った人々がクリミア人やウクライナ東部・南部の市民を代表していると主張するのはまったくの無駄です。クリミア人がクーデターを拒否したのは明らかです。彼らは「私たちが放っておいてくれ。あなた方とは関わりたくない」と。そこでクリミア人はドンバスで住民投票を行い、ロシアに再び帰属することを決めました。政権を握ったクーデター派はドンバスをテロリスト集団と宣言しました。彼らは砲撃を受け、大砲で攻撃されました。戦争が始まり、2015年2月に停戦し、ミンスク合意が締結されました。

私たちはミンスク合意が完全に履行されることで、この悲劇に終止符を打つことを強く望んでいました。しかし、ウクライナでクーデターが起こった後に樹立された政府によって、その妨害工作が行われました。クーデターを認めない人々との直接対話を求める声がありました。ウクライナのその地域との経済関係を促進するよう求める声もありました。しかし、どれも実行されませんでした。キーウの人々は、彼らとは決して直接対話しないと断言していたのです。直接対話を行うべきだという要求は安全保障理事会で承認されていたにもかかわらずです。そして彼らは、自分たちはテロリストであり、彼らと戦い、地下室で死ぬだろうと述べていました。なぜなら、我々の方が強いからです。2014年2月のクーデターが起こっていなければ、そして、前日に当時の大統領と野党の間で合意された内容が実施されていれば、ウクライナは今頃、クリミアを含めて平和を保っていたでしょう。それは明らかです。彼らは合意を守りませんでした。その代わりに、彼らはクーデターを起こしたのです。ところで、その合意では、2014年2月に国民融和政府を樹立し、早期の早期選挙を実施することが定められていました。当時の大統領は選挙で負けていたでしょう。誰もがそれを知っていましたが、彼らは焦り、政府庁舎を占拠しました。翌朝、彼らはこのマイダン広場に行き、「勝者の政府」を樹立したと宣言しました。選挙に向けた挙国一致内閣と「勝者の政府」を比較してみてください。彼らに敗北したと見なされた人々はどうなるのでしょうか。キーウ当局を尊重していると思わせることができるのでしょうか。ご知のように、アフリカで起こった脱植民地化プロセスには、国際法上の根拠となる自決権があります。この憲章の原則に基づいて、自決権が認められています。植民地の人々は、植民地支配者を植民地支配者として、自分たちを代表する者として、あるいは自分たちの土地を統治する体制に迎え入れたいと思うような者として扱ったことはありません。

同じことがウクライナ東部と南部の人々、ドンバスとノボロシアの人々にも言えます。彼らはゼレン

スキー政権を自分たちの利益を代表する者とは考えていません。彼らの文化、言語、伝統、宗教のすべてが禁止されていたのですから、彼らがそう考えるのは当然です。そして最後のポイントですが、国連憲章決議や国際法について語る場合、ウクライナの文脈において、欧米が決して、決して想起しない国連憲章の第1条には、すべての人々の人権を尊重することが書かれています。人種、性別、言語、宗教に関係なくです。どんな紛争でも、米国、英国、ブリュッセルは、人権が著しく侵害されていると口を揃えて干渉してきます。我々は、人権を回復しなければなりません。ウクライナに関してです。彼らは決して人権という言葉を発しません。ロシア人およびロシア語話者に対する人権が法律によって完全に抹殺されているのを見えています。ですから、人々が「憲章に基づいて紛争を解決しよう」と言うとき、その通りですが、憲章は領土保全だけを目的としているわけではないことを忘れてはなりません。領土保全は、政府が正当であり、自国民の権利を尊重している場合にのみ尊重されるべきものです。

タッカー・カールソン [00:12:57] 少し前に、あなたが言った極超音速兵器システムの導入または公開が西側へのシグナルであるという話に戻りたいと思います。具体的にどのようなシグナルですか？多くのアメリカ人は、このようなことが起こったことすら知らないと思います。世界に向けて公開することで、どのようなメッセージを送ろうとしたのですか？

セルゲイ・ラブロフ [00:13:14] メッセージは、つまり、あなた方、つまり、米国および米国の同盟国も、キーウ政権にこの長距離高兵器を提供しているということです。彼らは、我々(ロシア側)が、彼らが「ロシアの戦略的敗北」と呼ぶものを成功させないためにあらゆる手段を用いる用意があることを理解しなければなりません。彼らは、世界の覇権を維持するために戦っています。どの国でも、どの地域でも、どの大陸でもです。我々は正当な安全保障上の利益のために戦っています。

彼らは例えば、1991年の国境を主張しています。リンゼイ・グラハムは、以前、ゼレンスキーと別の会談を行いました。彼はゼレンスキーの前で、率直に、ウクライナにはレアアースが豊富にあり、この豊かな資源をロシアに委ねておくわけにはいかない、我々はこれを奪わなければならない、と述べたと思います。我々が戦うのは、天然資源や人的資源をすべて西側諸国に売却または譲渡する用意のある政権のために戦うためです。我々は、これらの土地に住み、その祖先が実際にその土地を開拓し、都市を建設し、工場を建設してきた人々のために戦います。何世紀にもわたって。私たちは人々を気にかけているのです。米国の誰かが欲しがり、手元に置いておきたい天然資源のことではなく、ウクライナ人をその天然資源の座に座らせたまま、召使のように飼っておきたいなどとは考えていません。ですから、私たちが実際の行動で示そうとしているメッセージ、すなわちこの極超音速システムは、私たちの正当な利益を守るためなら何でもする覚悟があるというメッセージなのです。米国との戦争など考えたくもありません。核戦争になるでしょうから。わが国の軍事ドクトリンでは、核戦争を回避することが最も重要であるとされています。

ところで、2022年1月にそれを始めたのは私たちです。安全保障理事会の常任理事国5カ国の首脳による共同声明では、お互いの安全保障上の利益と懸念を認め尊重し、対立を回避するため

に何でもすると述べています。これは我々のイニシアティブであったが、ウクライナが NATO やその他の軍事同盟のメンバーになることは決してないという共存の文脈において、ウクライナのための安全保障条約を締結するという提案を拒否したのとほぼ同時期に、ロシアの安全保障上の利益は完全に無視された。ロシアの安全保障上の利益は、2021年12月に NATO や米国を含む西側諸国に提示された。私たちは、2022年1月後半にジュネーブでトニー・ブリンケンと会談した際を含め、それらについて何度か議論しました。そして、それは拒否されました。ですから、私たちは誤解を避けたいと考えています。ワシントンやロンドン、ブリュッセルの一部の人々は理解する能力が低いようですので、私たちは追加のメッセージを送ります。彼らが必要な結論を導き出さなければ、ですが。

タッカー・カールソン [00:17:48] 核兵器の交換の可能性について話し合っているという事実、そしてそれが現実であるという事実は注目に値します。私が目にするとは思ってもみなかったことです。そして、ロシアと米国の間でどれほどの非公式な対話が行われているのかという疑問が生じます。この2年半の間、そのような対話はあったのでしょうか？

セルゲイ・ラブロフ [00:18:10] いくつかのチャンネルがありますが、主にロシアと米国で在任中の人々の交流です。何度か交換がありました。また、公表されていないチャンネルもあります。しかし、基本的にアメリカは、これらの(非公式な)チャンネルを通じて公に発信しているのと同じメッセージを送っています。それはやめるべきです。ウクライナのニーズとウクライナの立場に基づく方法を受け入れなければなりません。彼らは、ゼレンスキー大統領による全く無意味な和平案を支持しています。最近では「勝利計画」が追加されました。彼らは数回の連続して会合を開催しました。コペンハーゲン形式、ブルゲンシュトックなどです。そして、彼らは来年、来年前半に別の会議を開催し、その時はロシアを丁重に招待すると自慢しています。そして、ロシアに最後通牒が突きつけられるでしょう。これはすべて本当の話です。私は、さまざまな機密ルートを通じて、繰り返しこのことを伝えています。今、私たちは、ゼレンスキー大統領が「今ここでやめることができる」と発言したことや、ウクライナ政府が NATO に加盟する、というような、これとは異なる話を耳にしています。しかし、現段階では、NATO の保証は政府が支配する領土のみを対象とし、残りは交渉の対象となるでしょう。しかし、この交渉の最終結果は、ロシア領土からのロシアの完全撤退でなければなりません。基本的には、ロシア国民を、自国のロシア人およびロシア語話者の市民の権利をすべて抹殺した国々に取り残すこととなります。

タッカー・カールソン [00:20:30] 核兵器の交換の問題に戻りますが、ロシアと米国の指導者が互いに話し合って、何億もの人々を殺すような誤解を避けるためのメカニズムは存在しないということですね。

セルゲイ・ラブロフ [00:20:44] いいえ。弾道ミサイルの発射が行われている際には、自動的にこのチャンネルが起動します。この極超音速弾道ミサイル、中距離弾道ミサイルに関しては、30分前にこのシステムが米国にメッセージを送信し、米国はそれが何であるかを知り、より大きく、より危険な何かの誤認ではないことを知ります。

タッカー・カールソン [00:21:25] ええ、このシステムは非常に危険だと思います。

セルゲイ・ラブロフ [00:21:28] ええ、そうです。テスト発射でしたからね。

タッカー・カールソン [00:21:31] はい。ああ、テストのことですね。わかりました。しかし、
両国間の会話がほとんどないことを考えると、どの程度心配しているのか疑問に思います。両国とも、相手側の人口を絶滅させるというようなことを話していますが、それが短期間で制御不能になり、誰も止められなくなる可能性がある。信じられないほど低いように思えます。

セルゲイ・ラブロフ [00:21:52] 私たちはどこの国の人口も根絶やしにしようとは言っていません。私たちはこの戦争を始めたものではありません。私たちは何年も何年も何年も、自然を国境に近づけることは問題を引き起こすだろうと警告を発し続けてきました。2007年、プーチンは、歴史の終わりという優位性、挑戦のなさなどについて説明し始めました。そしてもちろん、クーデターが起こったとき、アメリカはそれを隠しませんでした。ヴィクトリア・ヌーランドと当時の在キウ米大使との間で、クーデター後の新政権に誰を入れるかという話が出た際の会話があります。独立後のウクライナに50億ドルを費やすという話が出ましたが、これはすべてがアメリカが望む通りに進むという保証だと考えられていました。ですから、ウクライナの人々を絶滅させようなどという意図は全くありません。彼らはロシア国民の兄弟姉妹なのです。

タッカー・カールソン [00:23:19] これまでに、双方で何人くらいが死亡したと思いますか？

セルゲイ・ラブロフ [00:23:22] ウクライナ側からは公表されていません。ゼレンスキーは、ウクライナ側の犠牲者は8万人をはるかに下回るだろうと述べています。しかし、パレスチナには非常に信頼性の高い数字があります。イスラエルがこのテロ攻撃への対応として軍事作戦を開始してから1年間の間、私たちが非難したテロ攻撃です。そして、この軍事作戦は、もちろん、国際人道法に違反する集団的処罰の様相を呈しました。パレスチナで軍事作戦が開始されてから1年間の間、パレスチナ民間人の死者数は4万5千人と推定されています。これは、ウクライナ紛争の両陣営でクーデター後10年間に死亡した民間人の数のほぼ2倍です。1年と10年。つまり、ウクライナでは悲劇であり、パレスチナでは災害です。しかし、ウクライナ政権がやったように、決して人々を殺すことを目標にしたことはありません。ゼレンスキー大統領府の責任者は、かつて「ハルキウやニコライウのような都市がロシア語をまったく忘れるようにする」と発言しました。また、大統領府の別の人物は、「ウクライナ人は法律によって、あるいは必要であれば物理的に、ロシア人を根絶やしにしなければならない」と述べています。名前を忘れたが、元駐カザフスタン大使のウクライナ人がインタビューに応じ、録画され放送されているカメラを覗き込んだことで有名になった。彼は、我々の主な任務は、子供たちのやることを減らすために、できるだけ多くのロシア人を殺すことだと語った。そして、このような発言は政権の語彙のいたるところにある。

タッカー・カールソン [00:26:04] 2022年2月以来、ロシア国内で何人のロシア人が殺された

のですか？

セルゲイ・ラブロフ [00:26:08] 私からこの情報を開示することはできません。軍事作戦時には特別な規則が存在し、国防大臣はこれらの規則に従っています。しかし、非常に興味深い事実として、ゼレンスキーが国際舞台ではなく、コメディクラブか何と呼ばれている場所で演じていたとき、その時期の動画では、彼はロシア語を擁護していました。彼はこう言っていた。ロシア語のどこが悪いんだ？ 私はロシア語を話す。ロシア人は隣人だ。ロシア語は我々の言語の一つだ。ロシア語やロシア文化を奪おうとする連中は失せろ、と。彼が大統領に就任すると、2021年9月の軍事作戦の前に、彼はインタビューを受けた。当時、彼はミンスク合意に違反してドンバス地方との戦争を遂行していた。そして、インタビュアーが彼に、接触ラインの向こう側にいる人々についてどう思うか尋ねました。すると彼は、とても考え込んでから、こう答えました。「(ロシアの)人々もいれば、種族もいる」と。そして、ウクライナに住んでいてロシア文化と関連性を感じているなら、子供たちのため、孫たちのために、ロシアへ出て行くことを勧めます。もしこの男がロシア人とロシア文化の人々を領土保全の下に戻したいと思っているなら、つまり、彼には適任ではないということです。

タッカー・カールソン [00:28:23] では、ロシアが敵対行為を停止する条件とはどのようなものでしょうか？ どのような条件を求めているのですか？

セルゲイ・ラブロフ [00:28:30] 10年前、2014年2月、私たちは大統領と野党間の合意だけを求めています。

タッカー・カールソン [00:28:38] はい。

セルゲイ・ラブロフ [00:28:39] 国民統一政府を樹立し、早期選挙を実施すること。その合意が署名され、私たちはその実施を求めています。彼らはまったくもってせっかちで攻撃的でしたし、もちろん追い詰められていました。私はアメリカ人が関与していると確信しています。なぜなら、ビクトリア・ヌーランド氏と米国大使が政府の構成に合意したのであれば、なぜ5週間も5か月も待って早期選挙を実施しなかったのでしょうか？次に我々が賛成したのは、ミンスク合意が署名された時です。私はその場にいました。交渉は17時間続き、合意が成立しました。しかし、その時点では、住民投票の結果、クリミアはすでに失われていました。同席していたジョン・ケリーを含め、西側諸国の誰もクリミアの問題を提起しませんでした。誰もがドンバスに集中していたのです。ミンスク合意では、クリミアを除いたウクライナの領土保全が規定されています。ドンバスのごく一部の特別な地位については、まったく提起されていませんでした。ドンバス全体ではなく、ノボロシアでもなく、ノボロシアのことはまったく考慮されていません。ドンバスの一部です。このミンスク合意では、安全保障理事会が承認した合意には、ロシア語を話し、ロシア語を教え、ロシア語で勉強し、米国の州のように地元の法執行機関を持ち、裁判官や検察官が中央当局によって任命される際に相談を受け、ロシアの近隣地域との経済的なつながりを促進する権利があるはずで、これは、マクロン大統領がコルシカ島に与えると約束したもので、現在もその方法と時期について検討中です。これらの合意は、当初はポロシェンコ、次

にゼレンスキーによって、ずっと妨害されてきました。ところで、両者とも平和の約束を掲げて大統領選に臨み、両者とも少し軽薄でした。ミンスク合意が妨害されたとき、ドンバス地方のこの小さな部分を力づくで奪おうとする試みを目にした。そして、プーチンが説明したように、我々は負債を抱えており、この安全保障体制を米国で必要だと提案したが、それは拒否された。そして、ウクライナと後援国がプラン B を発動し、ドンバス地方のこの部分を武力で奪おうとしたとき、私たちはこの特別な軍事作戦を開始し、彼らはミンスク合意を実施しました。ウクライナはクリミアを除いた 1 つの国となるでしょう。しかし、そのときでさえ、私たちが作戦を開始した後、ウクライナ人が交渉を提案したとき、私たちはベラルーシで数回のラウンドを行うことに合意し、その後、イスタンブールに移りました。そしてイスタンブールで、ウクライナ代表団がテーブルに「これらは我々が合意する用意のある原則である」と書かれた紙を置きました。そして我々はそれを受け入れました。

タッカー・カールソン [00:32:39] ミンスク原則ですか？

セルゲイ・ラブロフ [00:32:41] いいえ、違います。イスタンブール原則です。4 月 22 日のことで、NATO ではありませんでした。しかし、ロシアの参加により、ウクライナへの安全保障保証が集団的に提供されました。この安全保障保証はクリミアやウクライナ東部には適用されません。これは彼らの提案で、署名されました。そして、イスタンブールでのウクライナ代表団の団長(現在は議会でゼレンスキー派の議長)は、数か月前のインタビューで、これが事実であることを確認しました。そして、これらの原則に基づいて、条約の草案を作成する準備ができていました。しかし、そのイスタンブールでのウクライナ代表団の団長は、ボリス・ジョンソンが彼らを訪問し、戦い続けるよう伝えたと言いました。そして、

タッカー・カールソン [00:33:54] ボリス・ジョンソンが代表して？

セルゲイ・ラブロフ [00:33:57] 彼は否定しましたが、あの書類にサインをしたのは彼です。彼はボリス・ジョンソンだと言いました。ブチャでの虐殺を理由に、取引を台無しにしたのはプーチンだと言う人もいます。しかし、ブチャでの虐殺については、彼らはもう一切言及していません。私は言います。彼らが何度も防戦一方に立たされたという意味で、私たちはそうします。アントニオ・グテーレス氏を交えて国連安全保障理事会が開催されました。2 年前、昨年、そして今年、私は総会でブチャの問題を取り上げました。BBC の取材チームが死体が置かれた通りにたどり着いた際には非常に声高に発言していたにもかかわらず、ブチャについて沈黙しているのは奇妙です。BBC が放送した遺体のあった場所の名前を入手できるか問い合わせたところ、完全な沈黙が続きました。私は安全保障理事会メンバーの前でアントニオ・グテーレス氏に直接質問しました。彼は答えませんでした。そして、昨年 9 月の総会終了後のニューヨークでの記者会見で、私はすべての特派員たちに尋ねました。あなた方はジャーナリストです。おそらく、皆さんは調査報道の記者ではないでしょう。しかし、ジャーナリストであれば、ロシアを非難する報道でメディアが繰り返し流した真実やでたらめについて、興味を持つはずで、政治家や国連高官、そして今ではジャーナリストでさえも、誰も興味を持っていません。私は 9 月に彼らに尋ねました。お願いします。プロとして。プロとして。ブチャで遺体が公開された人々の名

前を入手してください。答えはありませんでした。アレクセイ・ナワルニーの医療分析の結果はどこにあるのかという質問に対する答えがないのと同じだ。最近亡くなった人物だが、2020年秋にロシア上空の飛行機の数少ない空席のベッドでドイツで治療を受けた。飛行機が着陸した。彼はシベリアでロシア人医師に治療を受けた。その後、ドイツ人が彼を連れて行きたいと言った。我々はすぐに飛行機が来ることを許可した。彼らは24時間以内に彼を連れて行った。彼はドイツにいました。そしてドイツ人は、我々が彼を毒殺したと言い続けました。我々は彼らに尋ねました。あなた方はそれができるのですか？そして彼らは、分析により彼が毒殺されたことが確認されたと発表しました。我々は、その検査結果を我々に渡すよう求めました。彼らは、いいえ、化学兵器に関する機関に渡します、と言いました。我々は、その機関に行き、我々はメンバーです、そして、我々は言いました。これは我々の市民であるので、我々に見せることができますか？私たちは彼を毒殺したと非難されました。彼らはドイツ人があなたたちに渡さないよう言ったと言いました。なぜなら、民間病院では何も見つからなかったからです。そして、彼が毒殺されたという発表は、軍の病院で治療された後になされました。ですから、この秘密は明らかになっていないようです。

タッカー・カールソン [00:38:04] では、ナヴァルニーはどのようにして死んだのですか？

セルゲイ・ラブロフ [00:38:07] ええ、彼はロシアで服役中に亡くなりました。しかし、報道によると、彼は時折体調不良を訴えていたようです。それが、ドイツ側に「見つけた結果を見せてもらえますか？」と尋ね続ける理由のひとつです。なぜなら、彼らが何を見つけたのか、彼らが彼に対して何をしたのか、私たちは知らないからです。わかりません。

タッカー・カールソン [00:38:34] ドイツ人が彼に何をしたのか？

セルゲイ・ラブロフ [00:38:35] ええ、彼らは私たちを含め、誰にも説明していません。まあ、アメリカ人には説明しているのかもしれませんが。これが真実なのかもしれませんが。しかし、彼らは彼をどう扱ったのか、何を見つけたのか、どんな方法を使っていたのかを私たちに話したことはありません。

タッカー・カールソン [00:38:53] 彼はどうやって死んだと思いますか？

セルゲイ・ラブロフ(00:38:55)私は医者ではありませんが、誰かが推測しようとする場合、あるいは医師が推測しようとする場合、情報が必要です。その人物は、毒を盛られた後、ドイツに搬送されて治療を受けました。その時の結果や検査結果は秘密にしておくことはできません。私たちは、セルゲイ・スクリパリとその娘の運命について、依然として信頼できる情報を何も得ることができません。我々には情報が提供されていません。彼は我々の市民です。彼女も我々の市民です。そして我々は、英国が加盟する条約の下で、情報を得る権利をすべて持っています。

タッカー・カールソン [00:39:47] なぜ多くのスレッドがあると思いますか？なぜボリス・ジョンソン、英国の元首相が、イスタンブールでの和平プロセスを止めたと思いますか？誰のために彼はそ

れをしていたのでしょうか？

セルゲイ・ラブロフ [00:39:59] ええ、私は彼と何度か会ったことがあります。彼が目先の欲望や長期的な戦略によって動機づけられていたとしても、私は驚きません。彼は非常に予測が難しい人物です。

タッカー・カールソン [00:40:15] わかりました。彼は米国政府、バイデン政権を代表して行動していたと思いますか？それとも、独自にこのようなことをしていたのでしょうか？

ラブロフ [00:40:22] 私にはわかりません。わかりません。そして、アメリカとイギリスがこのいわゆる状況で主導権を握っているという事実を推測するつもりはありません。今、いくつかの首都で疲労感が見られるようになっていることも明らかになってきており、アメリカが離脱したいという話が時折出ています。ヨーロッパ人であり、もっと重要なことに集中したいというのです。具体的な段階から判断するならば、そうはならないでしょう。しかし、バイデン政権がトランプ政権にできる限り悪いレガシーを残したいと考えていることは明らかです。はい。そして、オバマがトランプに対して行ったことと同様に、2016年12月の終わり頃、オバマはギリギリのところまでロシア外交官を追放しました。12月、120人の外交官とその家族がワシントンから直行便のない日に強制退去を命じられました。そのため、彼らは子供たちや荷物を抱えてバスでニューヨークまで移動しなければなりません。同時に、オバマ大統領はロシアの外交財産の一部を差し押さえたと発表しました。そして、私たちは今でもこのロシアの財産がどのような状態なのか見に行くことができません。彼らは我々に見に来ることを決して許可しません。そして、古い慣例では、彼らは、これらの物件は外交特権の対象ではないと言っています。これは、国際裁判所によって裏付けられたことのない一方的な決定です。

タッカー・カールソン [00:42:28] つまり、バイデン政権は、次期トランプ政権と同様のことをまたやっている？

ラブロフ [00:42:32] 追放と財産の差し押さえという出来事は、トランプ政権との関係を始めるにあたって、確かに有望な土台を作りませんでした。ですから、彼らは同じことをしていると思います。

タッカー・カールソン [00:42:50] しかし、今回は、ウクライナ戦争を終わらせるという明確な公約を掲げてトランプ大統領が当選しました。つまり、彼はあらゆる場面でそう発言していました。ですから、解決の望みがあるという前提で、合意できる条件とは何なのか、というように聞こえます。つまり、バイデン政権が次期トランプ政権とまた同様のことをするとお考えですか？

セルゲイ・ラブロフ [00:43:09] 追放と財産の差し押さえというあの出来事は、トランプ政権との関係を始めるにあたって、確かに有望な土台を作りませんでした。ですから、彼らは同じことをしていると思います。

タッカー・カールソン [00:43:26] しかし、今回は、ウクライナ戦争を終わらせるという明確な公約を掲げてトランプ大統領が当選しました。つまり、彼はあらゆる場面でそう発言していました。解決の望みがあるという前提で、あなたが同意する条件とは何なのか、というように聞こえますが。

セルゲイ・ラブロフ [00:43:47] ええ、その条件については、プーチン大統領が6月にこの省で演説した際に、私が言及した通りです。大統領は、イスタンブールで合意された原則に基づいて交渉する用意があることを改めて強調しました。ウクライナ代表団の団長によると、ボリス・ジョンソンが拒否したとのこと。ウクライナ代表団長の声明によると、重要な原則はウクライナの非ブロック状態であり、私たちは集団安全保障の保証を提供する国々のグループに参加する用意があります。

タッカー・カールソン [00:44:35] NATO(加盟は)No(ダメ)です。

セルゲイ・ラブロフ [00:44:36] NO、NATOです。絶対に軍事基地は認めない。外国軍が参加する軍事演習もウクライナの領土では認めない。これは彼が繰り返し述べたことです。しかし、もちろん、彼は2022年4月と言いました。そして、今、しばらく時間が経過し、現地の現実を考慮する必要があります。現地の現実とは、接触線だけでなく、ロシア憲法の変更も受け入れるということです。ドネツク、ルガンスク共和国、キーウの南部サパテロ地域で住民投票が行われた後。はい、そして彼らは今、憲法によるとロシア連邦の一部です。そしてこれが現実です。そしてもちろん、我々は維持するであろう取引を容認することはできません。ロシア語、ロシアのメディア、ロシア文化、ウクライナ正教会を禁止する割当を定めた法律は、国連憲章の下でのウクライナの義務の違反であるためです。そして、誰かがそれについて対処しなければなりません。そして、2017年にこのロシア恐怖症的な立法攻勢が始まって以来、西側諸国が完全に沈黙を守っているという事実、そして、この沈黙が今に至るまで続いているという事実、もちろん、私たちはこのことについて非常に特別な方法で注意を払わなければなりません。

タッカー・カールソン [00:46:22] ロシアに対する制裁を解除することが条件になるのでしょうか？

セルゲイ・ラブロフ [00:46:26] 恐らくロシアの多くの人々がそれを条件にしたいと思っているでしょう。しかし、制裁を受ければ受けるほど、ロシア人は自分自身で自立し、メカニズムを開発し、特に政治の経済的利益や政策を混同しない普通の国々との協力のためのプラットフォームを開発することがより良いと理解するようになります。そして、私たちは制裁が始まってから多くのことを学びました。制裁はオバマ政権下で始まりました。制裁は現在も継続しています。そして、トランプ政権の第一期とバイデン政権下の今回の制裁は、前例のないものです。しかし、死なないことで人は強くなるものです。

セルゲイ・ラブロフ [00:47:28] 彼らは決して私たちが殺すことはないでしょう。

だから、彼らは私たちをより強くしているのです。

タッカー・カールソン [00:47:32] そしてロシアを東へと追いやっていく。20年前、ワシントンのまともな政策立案者たちが考えていたビジョンは、なぜロシアを西側のブロックに組み込まないのか？ 東の台頭に対するバランスを取るためだ。しかし、そうはならなかった。まだ可能だと思いますか？

セルゲイ・ラブロフ [00:47:52] 私はそうは思いません。最近、プーチンは政治関係者や専門家が集まるヴァルダイ・クラブで演説を行いました。彼は、2022年初頭の状況に戻ることは決してないだろうと述べました。その時が来たのです。どうやら彼は自分自身で気づいたようです。彼だけでなく、公の場でこのことについて語りました。つまり、西側諸国と対等の関係になるためのあらゆる試みは失敗に終わった。ソ連崩壊後に始まった。今やリベラルな世界、民主的な世界、歴史の終焉の一部であるという陶醉感があった。しかし、すぐにそれは明らかになった。90年代、ロシア人のほとんどは、自分たちが最良でもジュニアパートナーとして、おそらくパートナーとしてさえ扱われず、西側諸国が物事を整理できる場所として扱われていた。例えば、オリガルヒと取引をしたり、資源や資産を買ったりといったことです。そして、おそらくアメリカ人はロシアは自分たちの手の内にあると判断したのでしょう。ボリス・エリツィン、ビル・クリントン。仲間として、笑い、冗談を言い合っていました。しかし、エリツィンの任期の終わり頃には、彼はこれがロシアにとって望ましいことではないと考え始めていました。これは非常に明白なことだったと思います。彼はプーチンを首相に任命し、その後、自ら退きました。そして、間近に迫った選挙で後継者としてプーチンを推薦し、プーチンは当選しました。しかし、プーチンが大統領に就任すると、彼は欧米との協力に非常に前向きになりました。そして、インタビューでこのことについて、かなり定期的に言及しています。私は、彼がジョージ・W・ブッシュ(ジュニア)と会談した場に同席したことがあります。オバマとも会談しました。2008年にブカレストでNATO-ロシア会議首脳会談が開催された際、グルジアとウクライナがNATOに加盟すると発表し、それを売り込もうとした。私たちは理由を尋ねた。昼食会があり、プーチンがその理由を尋ねた。

タッカー・カールソン [00:51:21] いい質問ですね。

セルゲイ・ラブロフ [00:51:22] 彼らはこう言いました。これは義務ではないと。なぜですか？ そうですね、NATOに加盟するプロセスを開始するには、正式な招待状が必要です。そして、これはスローガンです。ウクライナとグルジアは招待されるでしょう。しかし、このスローガンは、その発表の一部の人々にとっては強迫観念となりました。まず、サーカシビリが正気を失い、OSCE ミッションの保護下で、ロシアの平和維持部隊が駐留する中、自国民に対して戦争を開始したことです。そして、彼がこれを始めたという事実は、欧州連合(EU)が開始した調査によって確認され、彼らはサーカシビリが停止命令を下したと結論づけました。ウクライナ人にとっては、もう少し時間がかかりました。そして、彼らは親欧米的なムードを醸成していました。まあ、親欧米的なのは悪くありません。基本的に、親東欧も悪くはない。悪いのは、どちらか一方を人々に押し付けることだ。私についてくるか、それとも私の敵になるか、どちらかだ。2013年のウクライナのクーデター前には何が起こっていたのか？ウク

ライナの大統領、ヤヌコビッチ氏は、欧州連合(EU)と何らかの連合協定を結び、ウクライナの EU 向け、EU のウクライナ向け商品の関税を撤廃しようとしていた。そして、ある時点で、彼がロシアの同僚と会談していた際に、私たちは彼にこう言いました。「ウクライナはすでに自由貿易圏の一部です。独立国家共同体(CIS)の自由貿易圏の一部です。誰もが関税なしで取引できるのです。そして、私たちロシアは世界貿易機関(WTO)と協定を交渉しました。15 年か 17 年ほど前から、主に EU と交渉し、私たちの多くの産業分野を保護するいくつかの協定を達成しました。農業やその他の産業です。そして、ウクライナ人に対して、もしあなたがゼロ関税に踏み切るのであれば、と説明しました。EU との貿易において、ウクライナとの国境を関税で保護しなければならなくなるでしょう。そうしなければ、ゼロ関税の欧州製品が流入し、我々の産業が打撃を受けることとなります。我々は産業を守ろうとしており、合意しています。そこで、EU に対して、ある程度の保護を提案しました。ウクライナは我々の共通の隣国です。ウクライナとの貿易をより良くしたいのであれば、我々はウクライナと会いたいし、ヨーロッパとロシアの両方に市場を持ちたい。なぜ我々3カ国で話し合っ、大人の対応をしないのか？欧州理事会委員会の委員長はポルトガル人だった。バローゾという名前だった。そして彼はこう答えた。ウクライナと我々が何をしようと、あなたには関係ないことだ。例えば我々、欧州連合は、あなた方が中国との貿易について我々と話し合うことを求めない。まったく傲慢な回答です。そして、ウクライナのヤヌコビッチ大統領は、専門家たちを説得し、専門家たちは、EU との国境を開放するのはあまり良い考えではないと答えました。しかし、ロシアとの関税国境は閉鎖され、ロシア市場に影響が出ないよう、入ってくるものをチェックすると言いました。そして、彼は 2013 年 11 月に、すぐに合意に署名することはできないと発表し、欧州連合に延期を要請しました。それが引き金となり、マイダンで即座にクーデターが勃発し、クーデターによって終結しました。私が言いたいのは、実際には最初のクーデターは 2004 年に起こったということです。2 回目の選挙の後、同じヤヌコビッチ氏が大統領に選出されました。西側諸国は大騒ぎし、ウクライナ憲法裁判所に圧力をかけて、第 3 回目の選挙を行うべきだと裁定を下させました。そして、ウクライナ憲法にはこう書かれています。西側諸国の圧力により憲法裁判所で 2 回目の選挙が行われ、初めて憲法が破られました。そして、その時点で候補者は誰も選ばれませんでした。こうしたことが起こり、沸騰していたとき、ヨーロッパの指導者たちは公に、ウクライナ国民は我々とロシアのどちらにつくのか決めなければならないと述べていました。このどちらか、という状況は今でも非常に続いています。

タッカー・カールソン [00:57:09] しかし、それが大国の行動様式なのです。つまり、特定の軌道があり、現在は BRICs 対米国対中国という構図です。ロシアと中国の同盟は永続的だと言っているように聞こえますが。

セルゲイ・ラブロフ [00:57:21] まあ、我々は隣人同士です。そして、地理は非常に重要です。

タッカー・カールソン [00:57:26] しかし、西ヨーロッパもまた隣人同士です。我々はそれを事実上学びました。

セルゲイ・ラブロフ [00:57:30] ウクライナを通じて、西欧諸国は我々の国境に近づこうとして

います。そして、アゾフにイギリス海軍基地を置くという計画が公然と議論されていました。クリミアでは、クリミアに NATO 基地を創設するなどという夢想もされていました。もし我々が望むなら、例えばフィンランドとは非常に友好的な関係を築いています。一夜にしてフィンランドは、第二次世界大戦の初期段階でヒトラーの最良の同盟国であった頃に戻ってしまいました。そして、この中立性、この友好関係、すべて一緒に聞こえるでしょうが、一緒にズル休みしていたものが一夜にして消えてしまったのです。おそらく、彼らの心の中では中立性が重荷となり、礼儀正しさが重荷となっていたのでしょう。わかりません。

タッカー・カールソン [00:58:38] それは十分にあり得る。あなたはゼレンスキーと交渉できるのか？ あなたは彼が任期を超過していると指摘した。彼はもはや民主的に選出されたウクライナの大統領ではない。では、あなたは彼を交渉の適切なパートナーだと考えているのか？

セルゲイ・ラブロフ [00:58:54] プーチン大統領は、この問題についても何度も言及している。2022年9月、ゼレンスキー大統領の最初の年、特別作戦中、彼は状況の条件を指示するだろうと確信していました。また、西側に対しても、プーチン政権との交渉を一切禁止する法令に署名しました。そして、その出来事の後、公のイベントでプーチンがロシアが交渉の準備ができていない理由を尋ねられたとき、彼は「逆さまにしないでくれ」と言いました。我々は、明日の利害のバランスを考慮した交渉であれば、準備ができています。しかし、ゼレンスキーは交渉禁止のこの法令に署名した。まず第一に、なぜそれを公にキャンセルすると言わないのか？ これは交渉を望んでいるというシグナルになる。代わりに、ゼレンスキーは後に彼の平和の方程式を考案した。それは勝利計画による決定だった。そして彼らは、欧州連合の大使と会う時や、他の場面で彼らが何を言うか分かっていると言いつけています。我々の条件でなければ、合意はない。そして、私はこの平和の方程式を基に、彼らが今、この2回目のサミットを計画していると申し上げました。そして、彼らは、我々がすでに西側諸国と合意した内容をロシアに提示するよう招待すると言っています。そして、我々の西欧の同僚たちが時折、ウクライナ抜きでウクライナについて何も言わないと主張する。実際、これはロシア抜きでロシアについて何も言わないことを意味する。なぜなら、彼らは我々が受け入れなければならない条件について議論しているからだ。ところで、最近、彼らはすでに、基本的に「ウクライナ抜きでウクライナについて何も言わない」という概念を侵害している。パスやメッセージがある。彼らは我々の立場を知っている。我々は二重ゲームをしているわけではない。プーチンが発表したことは、我々の活動の目標である。その範囲は国連憲章と完全に一致している。まず第一に、権利、言語権、少数民族の権利、国民の少数派の権利、宗教上の権利、そして石油と完全に一致しています。原則をご覧ください。ヨーロッパの安全保障と協力のための組織はまだ存在しています。この組織のいくつかのサミットでは、安全保障は不可分でなければならないと明確に述べられています。誰も他者の安全保障を犠牲にしてはならないのです。そして最も重要なことは、欧州・大西洋地域のいかなる組織も支配を主張してはならないということです。これは2010年に確認された最後のことです。そして、自然は全く逆のことをしていました。はい。私たちはそうしてきました。私たちはそうしてきました。私たちの立場における正当性、つまり、NATO が私たちの目の前に存在しないのは、皆さんもご存じのように、それが私たちに損害を与えるのであれば、そうあるべきではないと皆が合意しているからです。そして、ロシア人の権

利を回復してください。

タッカー・カールソン [01:02:57] 米国で外交政策の決定を行っているのは誰だと思いませんか？これは米国での質問です。

セルゲイ・ラブロフ [01:03:03] 私は誰かについて、推測しません。私はトニー・ブリンケン氏とは4年間会っていません。2年前、G20 サミットだったと思います。それは会議中だったのか、それとも会議の合間だったのか？余白？彼は彼の補佐官です。私はプーチン大統領の代理でした。会議中に彼の補佐官が私のところに来て、トニーが10分だけ話したいと言っていると告げました。私は部屋を出ました。握手をして、彼は緊張緩和の必要性などについて何か言いました。私がこれを暴露しているからといって、彼が私に対して怒っていないことを願っています。しかし、私たちは部屋に大勢の人がいる前で会談していました。私は「エスカレートしたくありません。ロシアに戦略的敗北を与えたいのですか？」と言いました。彼は「いいえ、いいえ、いいえ、いいえ、世界的な戦略的敗北ではありません。ウクライナだけの話です。」と言いました。

タッカー・カールソン [01:04:02] それ以来、彼とは話していないのですか？いいえ。それ以来、バイデン政権の関係者と話しましたか？

セルゲイ・ラブロフ [01:04:11] 彼らのキャリアを台無しにしたくないので。

タッカー・カールソン [01:04:14] しかし、有意義な会話はありましたか？

セルゲイ・ラブロフ [01:04:17] いいえ、いいえ、まったくありません。いいえ、私が知っている人、私が知っている人と国際的なイベントで会ったときです。アメリカ人です。

タッカー・カールソン [01:04:33] ええ。

セルゲイ・ラブロフ [01:04:35] 挨拶を交わす人もいれば、少し言葉を交わす人もいる。でも、私は決して自分から近づいていったりはしない。

タッカー・カールソン [01:04:42] しかし、意味のあるものは何も共有されていない。。

セルゲイ・ラブロフ [01:04:44] アメリカ人が私と話しているのを見たり、ヨーロッパ人が私と話しているのを見たりすると、彼らは知っています。前のG20会議で、私がいるのを見て逃げ出したヨーロッパ人たち、それは馬鹿げています。大人であり、成熟した人々、彼らはまるで子供のように振る舞います。とても幼稚で信じられません。

タッカー・カールソン [01:05:13] 2016年12月、オバマ政権が選挙後の最後の1か月間に、次期トランプ政権のために大量の爆弾を残したとあなたは言いました。この地域では、ジョージア州やルーマニアのルセなど、国境を接する州で政治的にさまざまなことが起こっています。そしてもちろん、最も劇的なのはシリアの混乱です。これは、米国が国連決議をより困難にするための努力の一環であるように思えますか？

セルゲイ・ラブロフ [01:05:52] 率直に言って、新しいことは何ともありません。なぜなら、米国は歴史的に外交政策において、問題を引き起こし、イラク侵略の泥沼化に乗じて利益を得ようとしてきたからです。リビアの冒険は国家を破滅させ、基本的にはアフガニスタンから撤退し、今度は裏口から戻ろうとしています。国連を利用して、米国がアフガニスタンをひどい状態で去り、お金を奪ったり、返したくないと思っているにもかかわらず、米国が関与できるようなイベントを組織しようとしているのです。これは、アメリカの外交政策のステップを分析すれば、ほとんどが「冒険」という言葉がぴったりで、それがパターンなのです。彼らは何か問題を起こし、それをどう利用するかを考えます。グルジアでは、OSCEが選挙監視を行っていた時、ロシアは常に非常に否定的でした。ベラルーシやカザフスタンなど、他の国々も同様です。今回のグルジアでは、OSCEの監視団は肯定的な報告書を提出しました。しかし、それは無視されています。つまり、必要なときにだけ、手続きを承認するということです。選挙の結果が気に入れば承認する。気に入らなければ無視する。米国や他の西側諸国がコソボの一方的な独立宣言を承認したときのことを考えてみてください。数年後、コソボでは住民投票も行われず一方的な独立宣言が行われたが、これは自己決定の行使であると彼らは言った。ちなみに、その後セルビアは国際司法裁判所に訴え、同裁判所は、通常、彼らの判断はあまり明確ではないが、一方的な独立宣言や、領土の一部が独立を宣言した場合、中央当局の同意は必ずしも必要ではないと裁定した。そして数年後、クリミアが多くの国際監視団の招待を受け住民投票を実施した際には、国際機関ではなく、ヨーロッパ、アジア、旧ソ連圏の各国の国会議員が監視団を務めました。彼らは「いいえ、これは受け入れられません。なぜなら、これは領土保全の侵害だからです」と述べました。

タッカー・カールソン [01:09:21] その通りです。

セルゲイ・ラブロフ [01:09:22] あなたは、つまり、取捨選択している。国連憲章はメニューではない。そのすべてを尊重しなければならない。

タッカー・カールソン [01:09:31] では、誰が支払っているのか？アレッポの一部を占領した反体制派なのか？アサド政権は崩壊の危機にあるのか？あなたの見解では、シリアで何が起きているのか？

セルゲイ・ラブロフ [01:09:42] さて、この危機が始まったとき、我々は合意に達しました。そして、ロシア、トルコ、イランによるアスタナ・プロセスを組織しました。我々は定期的に会合を開いており、現地の状況について話し合うために、年内または来年初頭にもう一度会合を開く予定です。そして、ゲームのルールは、シリア人が互いに歩み寄れるよう支援し、それを妨げることを防ぐことです。

ストレスを分離し、強くなる。それがアメリカ人がシリア東部で行っていることです。石油や穀物、塩などの利益を一部のクルド人分離主義者が利用しているのです。このアスタナ形式は、望むなら、プレーヤーの便利な組み合わせです。アレッポとその周辺でこのようなことが起こった後、私たちは非常に懸念しています。トルコの外務大臣とイランの同僚と話し合い、今週会うことにしました。

タッカー・カールソン [01:11:15] 予想はしていましたか？

セルゲイ・ラブロフ [01:11:16] ドーハで、この国際会議の余暇に実現できることを期待していますか？イドリブの非戦闘区域は、テロリストがアレッポに向かって移動した場所でした。そのため、イドリブ地域の取り決めを厳格に履行する必要性について話し合いたいと思います。そして、2019年と2020年に合意された取り決めでは、トルコの友人たちがイドリブの非戦闘地帯の状況を管理し、ここから、非テロリストでトルコと協力している反体制派であるロシアのヌスラ戦線を分離することが定められていました。しかし、どうやらまだ実現していないようです。まだ実現していません。そして、もう一つの取り決めは、ダマスカスからアレッポへのルートである M5 の開通でしたが、これも今では完全にテロリストたちによって占領されています。そこで、我々外務大臣は、できれば今度の金曜日でもこの状況について話し合うつもりです。そして、3か国の軍と治安当局は連絡を取り合っています。

タッカー・カールソン [01:12:39] イスラム過激派、先ほどあなたが言及したテロリストたち。彼らを支援しているのは誰ですか？

セルゲイ・ラブロフ [01:12:44] ええ、我々はある程度の情報を入手しており、この件について、またこのプロセスについて、資金調達や武装のルートを断つ方法をすべてのパートナーと話し合いたいと考えています。流布されている情報には、アメリカやイギリスなどの名前が挙がっています。一部の人々は、イスラエルがこの状況を悪化させ、ガザ地区が厳しく監視されないようにしていると主張しています。これは複雑なゲームです。多くの多くのアクターが関与しています。そして、今週私たちが計画している状況が、この状況の安定化に役立つことを願っています。

タッカー・カールソン [01:13:47] ドナルド・トランプについてどう思いますか？

セルゲイ・ラブロフ [01:13:51] 彼がプーチン大統領と会談していた時に何度かお会いしました。それから、2回ほど、大統領執務室で2国間協議のために私が訪米した際に彼にお会いしたと思います。まあ、彼は非常に強い人物だと思います。結果を求める人物です。どんなことでも先延ばしにすることを好まない。そして、これは私の印象ですが、彼は議論においては非常に友好的です。議論においては。しかし、これは彼が親露派であるという意味ではありません。一部の人々が彼をそう見せようとしているように。トランプ政権下で受けた制裁の規模は、非常に、非常に、非常に大きなものでした。そして、私たちは、有権者が下すあらゆる選択を尊重します。彼らが投票し、アメリカ国民の選択を尊重するとき。そして、プーチン大統領が言ったように、私たちは接触にオープンです。現政権とは常にオープンであり続けてきました。そして、ジョー・バイデン氏、あるいはドナルド・トランプ氏が就

任した際には、私たちがこの側で見たことのないボールが何なのかを理解できることを願っています。安全保障や経済貿易に関するあらゆる接触です。

タッカー・カールソン [01:15:40] そして最後の質問です。ロシアと米国の間の紛争のエスカレーションについて、どの程度真剣に懸念していますか？あなたが知っていることを踏まえて？

セルゲイ・ラブロフ [01:15:50] まあ、私たちはこの質問から始めました。多かれ少なかれ。

タッカー・カールソン [01:15:53] それが中心的な質問のようです。

セルゲイ・ラブロフ [01:15:56] はい。そしてヨーロッパの人々は、合意条件を決めるのはゼレンスキーではなく、米国とロシアだとささやき合っていると言います。私たちは自分たちの関係を表明すべきではないと思います。ご存知のように、2人の男が全員のために決定します。それは、まったく違います。それは私たちのやり方ではありません。私たちは、BRICs や上海協力機構が支配しているやり方を好みます。そこでは、国家の主権平等という国連憲章の原則が本当に重要です。米国は国家の主権平等を尊重することに慣れていません。ご存知のように、米国は、ルールに基づく世界秩序を損なうため、ロシアがウクライナに建設することを許可しないとありますが、それはアメリカの支配です。ところで、NATO は、少なくともバイデン政権下では、ユーラシア大陸全体に目を向けています。インド太平洋戦略。南シナ海。東シナ海はすでに始まっています。NATO の緊急性は、インフラを動かすことです。活発な動きが見られます。米国、韓国、日本は、核兵器を含む軍事同盟を構築しています。そして、NATO の元事務総長であるストルテンベルグ氏は、昨年のサミットの後で、欧州大西洋の安全保障はインド太平洋の安全保障と切り離せないものだと述べました。それは領土防衛を超えることを意味するのかと尋ねられたとき、彼はこう答えました。「いいえ、違います。領土防衛を超えるものではありません。しかし、我々の領土を守るためには、そこに存在する必要があります。」、と。この先制攻撃の要素はますます存在感を増しています。しかし、米国としては、誰とも戦争は望んでいません。そして、私が言ったように、核兵器。5つの核保有国。2022年1月にトップレベルで、我々は互いに対立を望まず、互いの安全保障上の利益と懸念を尊重すると宣言しました。また、核戦争は決して勝つことができない戦争であり、したがって核戦争はあり得ない、とも述べています。そして、ロシアと米国、プーチン、バイデンが21年にジュネーブで会談した際にも、文字通り同じことが繰り返されました。6月です。基本的に、彼らは1987年のレーガンとゴルバチョフの声明を再現しました。彼らは核戦争はないと考えています。そして、これは絶対に、ご存知のとおり、極めて重要な利益です。そして、彼らはこれが米国の極めて重要な利益でもあることを望んでいます。私がそう言うのは、少し前に、ホワイトハウスのコミュニケーションコーディネーターか何かであるカービー氏が、エスカレーションと核兵器が使用される可能性について質問し、質問に答えていたからです。そして彼は、核の要素があれば、ヨーロッパの同盟国が苦しむので、エスカレーションは望んでいない、と言いました。つまり、精神的にもそうです。彼は米国が苦しむことを除外しています。そして、これは状況を少し危険にしているものです。そうなるかもしれません。このような考え方が広まれば、無謀な行動が取られることになる。これは良くないことだ。

タッカー・カールソン [01:20:34] つまり、あなたが言いたいのは、アメリカの政策立案者は、アメリカに直接影響しない核の応酬が起こり得ると思っているということですね。

そして、それは真実ではないと？

セルゲイ・ラブロフ [01:20:45] 私が言ったのはそういうことです。はい。いいえ、しかし、抑止力、核抑止政策の専門家たちは、それが非常に危険なゲームであることをよく知っています。核攻撃の限界について語ることは、災害への招待状であり、それは私たちが望むものではありません。

タッカー・カールソン [01:21:13] ラブロフさん、ありがとうございました。

セルゲイ・ラブロフ [01:21:15] ありがとうございました。

本稿終了